



2

アセスメント場面での  
作業特性・作業遂行能力  
の把握方法

# 作業上の利用者自身の特性の現れ方、作業遂行力の把握を行うための支援を行う

利用者が作業中に発生させたエラーの特徴やパターンを把握する。

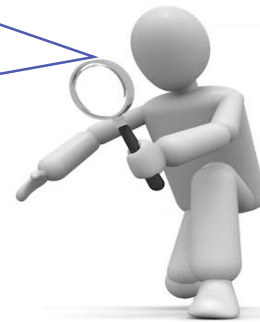
利用者が作業中に発生させたエラーの原因を把握する。

利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検討を行う。

利用者の未体験の作業も含めた作業種の興味や関心を把握する。

実際の職場でもこんなことに困るかな？



TP支援におけるエラーパターンを知るための重要キーワード「保続性」について知ろう！



# 作業中に発生させたミスやエラーの特徴やパターンを探ろう

ミスが連続して続く、手順が定着しない。→目的意識が曖昧？

対応策：正確な作業を継続することの目標設定、その後、目標や保管方法を常に意識できる。

環境設定→事務作業・PC横に明示等

補完手段を提示して連続して正答しても、突然、同じレベルでエラーをする。

→補完手段が継続しにくい？

対応策：MWS実施時のフィードバック時、および目標設定の際に留意する。

メモリーノートへの記載（目標の明示・補完を伴う作業手順の定型化）

ミス・エラーの補完方法を提示して修正しても前の状態に戻る

→手順・手続きの変更が苦手？

対応策：MWS実施時のフィードバック時に復職後の職場でおこる懸念を共有

復職時の環境調整等で、復職前との環境の変化を事業所へ確認

ミスを減らそうとしない。あてずっぽうの反応

→ルールの明確化・単純化が必要？

対応策：正確に作業を継続できる条件を明確化する。

類推の必要ない作業への環境調整の必要性を確認

利用者が作業中に発生させたエラーの特徴やパターンを把握する。

利用者が作業中に発生させたエラーの原因を把握する。

利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検討を行う。

利用者の未体験の作業も含めた作業種の興味や関心を把握する。

# 作業中に発生させたミスやエラーの特徴やパターンを探ろう



評価の機能としてだけでなく、訓練を行うことや、その効果を確認することを通して、利用者の作業遂行力向上に向けた、学習機会を設定し、実施する

利用者が作業中に発生させたエラーの特徴やパターンを把握する。

利用者が作業中に発生させたエラーの原因を把握する。

利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

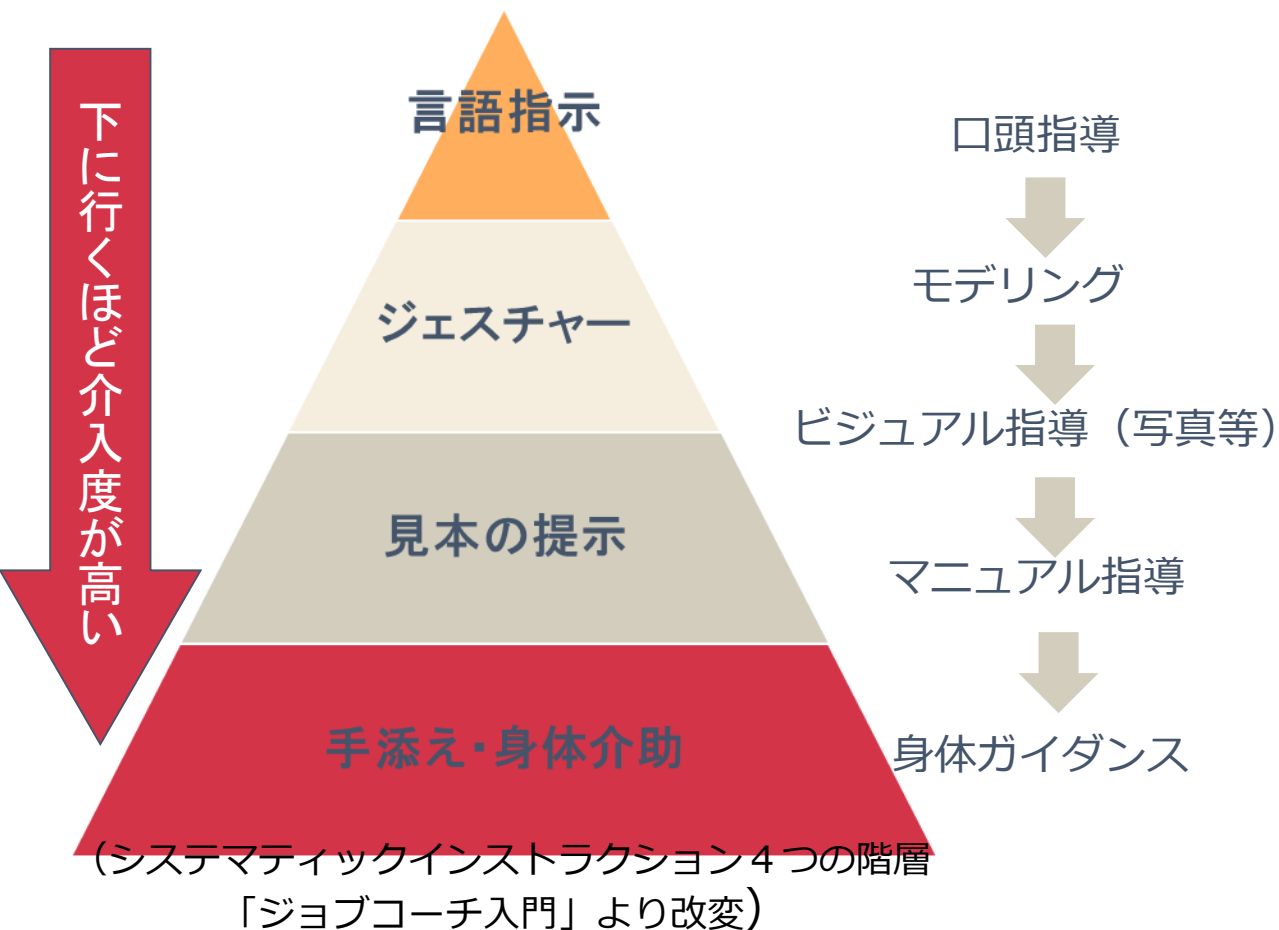
作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検討を行う。

利用者の未体験の作業も含めた作業種の興味や関心を把握する。

# 作業中に発生させたミスやエラーの特徴やパターンを探ろう

## 指示の出し方

### 『プロンプト・フェイディング法』



利用者が作業中に発生させたエラーの特徴やパターンを把握する。

利用者が作業中に発生させたエラーの原因を把握する。

利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検討を行う。

利用者の未体験の作業も含めた作業種の興味や関心を把握する。

# 作業中に発生させたミスやエラーの特徴やパターンを探ろう



利用者の長所、適切な仕事の指導方法、職場適応に必要な環境などを、企業担当者に伝えるためにMWSを活用する。

利用者が作業中に発生させたエラーの特徴やパターンを把握する。

利用者が作業中に発生させたエラーの原因を把握する。

利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検討を行う。

利用者の未体験の作業も含めた作業種の興味や関心を把握する。

# 作業上の利用者自身の特性の現れ方、作業遂行力の把握を行うための支援を行う

## ● 職業リハビリテーションにおける課題分析

対象者がつまづいている学習の段階や、その段階を乗り越えるために必要な支援方法について、**指導や支援の方法を段階的に分析**して組み立て、目標となる課題（目標課題）が達成できるよう、「学習課題」の課題分析を行う。

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの特徴やパターンを把握する。

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの原因を把握する。

利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検討を行う。

利用者の未体験の作業も含めた作業種の興味や関心を把握する。

# 作業上の利用者自身の特性の現れ方、作業遂行力の把握を行うための支援を行う

## ● 課題分析の定義

応用行動分析的アプローチにおける「課題分析」は、「機能分析」の結果から支援方法を具体化するために必要な分析手法



一連の複雑な行動を、より細かな行動単位に分け、手順を時系列に沿って記載する。

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの特徴やパターンを把握する。

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの原因を把握する。

利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検討を行う。

利用者の未体験の作業も含めた作業種の興味や関心を把握する。



# 作業上の利用者自身の特性の現れ方、作業遂行力の把握を行うための支援を行う

## ● 課題分析の目的

—「機能分析」の結果から支援方法を具体化するため  
に必要となる分析方法

—「指導や支援の方法を段階的に分析」して組み立て、目標となる課題（目標課題）が達成できるようにするための分析手法

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの特徴やパターンを把握する。

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの原因を把握する。

利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検討を行う。

利用者の未体験の作業も含めた作業種の興味や関心を把握する。

# 作業上の利用者自身の特性の現れ方、作業遂行力の把握を行うための支援を行う

## ● 相手の話に耳を傾ける

(相手の話を聞いていないと怒られる人への J C 支援事例) 機能・課題分析

直前の状況  
(きっかけ)

話かけられる

行 動

積極的傾聴

結 果

会話が弾む良い印象

課題分析

### ステップ

- ①相手の顔を見る
- ②うなずいたり、あいずちをうつ。
- ③相手が言ったことを復唱する。

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの特徴やパターンを把握する。

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの原因を把握する。

利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検討を行う。

利用者の未体験の作業も含めた作業種の興味や関心を把握する。

# 作業上の利用者自身の特性の現れ方、作業遂行力の把握を行うための支援を行う

## 「機能分析」の結果から支援方法を具体化するため段階的に分析

### ステップ

- ①相手の顔を見る
- ②うなずいたり、あいずちをうつ。
- ③相手が言ったことを復唱する。

### コミュニケーションをとる時大事なポイント

- ① 視線
- ② 表情
- ③ 姿勢
- ④ ジェスチャー
- ⑤ 声の大きさ
- ⑥ 話のなめらかさ
- ⑦ 話の内容や言い方の工夫

### 過剰・不足をチェック

- 視線は・・・
- うなずきは・・・
- ジェスチャーは・・・
- 表情は・・・



利用者が作業中に発生させたミスやエラーの特徴やパターンを把握する。

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの原因を把握する。

利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検討を行う。

利用者の未体験の作業も含めた作業種の興味や関心を把握する。

# 作業上の利用者自身の特性の現れ方、作業遂行力の把握を行うための支援を行う

＜職務分析シート＞ 事業所名：A 対象者：B 記入者：C 作成日： 年 月 日

時間	職務の概要	場所	道具	ルール、留意点、担当者等
8:30～10:30	出社・着替え	ロッカー室		通勤用私服から制服に着替える
	食堂から前日使用された湯飲みを回収し洗浄する。	給湯室		
	6個のポットのお湯を入れ替え、新しくお湯を沸かす。	給湯室		
	男女のロッカー室の床を掃く。	ロッカー室	自在箒	
	食堂のテーブルを布巾できれいに拭く。	食堂	布巾	隅々まで拭くように留意する。
10:30～10:40	午前休憩	休憩室		
10:40～12:00	食堂から午前休憩時に使用された湯飲みを回収し洗浄する。	給湯室		
	昼食の準備をするため、調味料を各テーブルに配置し、箸、味噌汁のお椀、ふりかけを所定の位置に配置する。	食堂		配膳図を参照する。
13:00～15:00	昼食後の片付けをするため、各テーブルから調味料を回収し、冷蔵庫にしまう。味噌汁のお椀、ふりかけを所定の位置に戻す。	食堂		
	食堂の各テーブルを布巾できれいに拭く。	食堂	布巾	隅々まで拭くように留意する。
	食堂から昼食時に使用された湯飲みを回収し洗浄する。	給湯室		
15:00～15:10	午後休憩			
.	.	.		
.	.	.		
.	.	.		

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの特徴やパターンを把握する。

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの原因を把握する。

利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検討を行う。

利用者の未体験の作業も含めた作業種の興味や関心を把握する。

# 作業上の利用者自身の特性の現れ方、作業遂行力の把握を行うための支援を行う

## 時間の構造化:

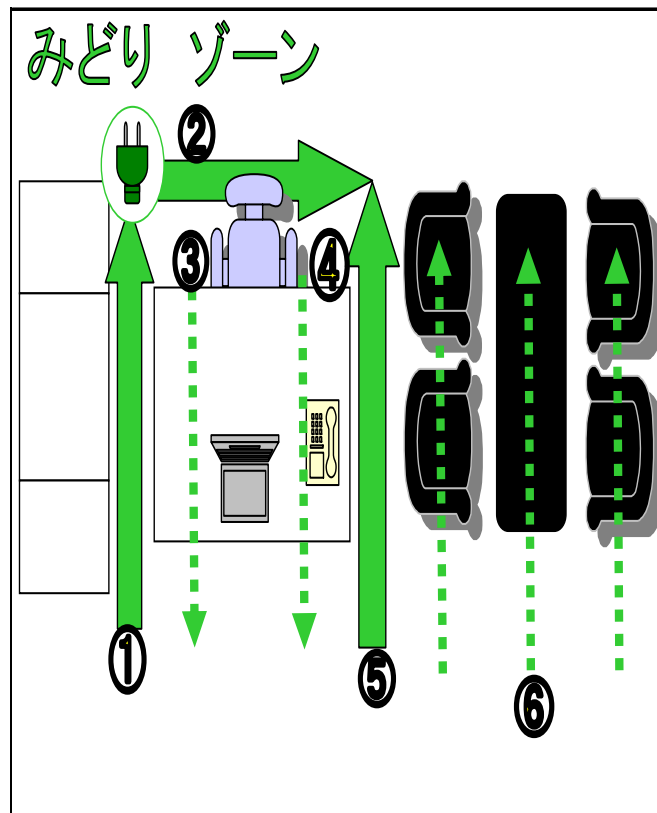
### 1日のタイムスケジュールの例

#### タイムスケジュール (午前)

9:00	出勤・タイムカード パチンコガラス清掃 パチンカセット清掃
9:55	片付け
10:00	休憩 タイマーは15分でセットする
10:20	更衣室の清掃 ①休憩室の清掃(はき掃除・モップ) ②男子更衣室清掃 ③男子ロッカーの上の清掃 ④下駄箱の清掃 ⑤男子・女子更衣室ドアの清掃 管理棟の清掃 ⑥階段の清掃(はき掃除・モップ) ⑦通路の清掃(はき掃除・モップ) ⑧男子トイレの清掃 ⑨1階の流し 清掃した所の点検
11:30	駐車場の清掃 ※出発前に社員の方に声をかけましょう ※時間がずれたら、社員に聞きましょう
12:00	昼休み タイマーは30分でセットする
	困ったことがあったら、社員に聞きましょう

\* 結果: 作業の見通し  
が持てる

## 場所の構造化: 事務室掃除の方向



\* ゾーン毎に掃除方向を明示  
結果: 効率的な清掃が可能

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの特徴やパターンを把握する。

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの原因を把握する。

利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検討を行う。

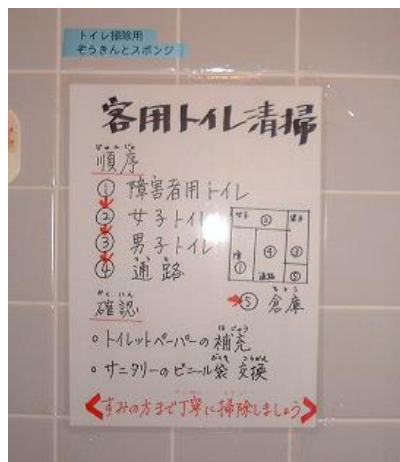
利用者の未体験の作業も含めた作業種の興味や関心を把握する。

# 作業上の利用者自身の特性の現れ方、作業遂行力の把握を行うための支援を行う

## 方法の構造化 手順書(携帯型)



## 方法の構造化 手順書(掲示型)



## 方法の構造化 手順書+チェック表

### トイレそうじチェック表

	チェック内容	チェック	リマーク
	ゴミやかみの毛がついていないか？		
	ぬれていないか？		
	かがみ が くもっていないか？		
	よごれ が ついていないか？		
	三角おりにしたか？		
	トイレットペーパーは三つあるか？		



利用者が作業中に発生させたミスやエラーの特徴やパターンを把握する。

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの原因を把握する。

利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検討を行う。

利用者の未体験の作業も含めた作業種の興味や関心を把握する。

やってみましょう！！

課題分析





# 作業上の利用者自身の特性の現れ方、作業遂行力の把握を行うための支援を行う

認知機能の低下により、作業を遂行する際の脳機能にかかる負荷が高くなる。

障害の分かりにくさ、中途障害といった特徴から、ストレスを抱えることも多くなる。



受傷前と比較し、**疲労しやすい状態にある**と考えられる

しかし、現場では、休憩の取得について計画的、段階的な方法を用いることがほとんどなく、支援者の任意の判断によりマネジメントされていることが多い。

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの特徴やパターンを把握する。

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの原因を把握する。

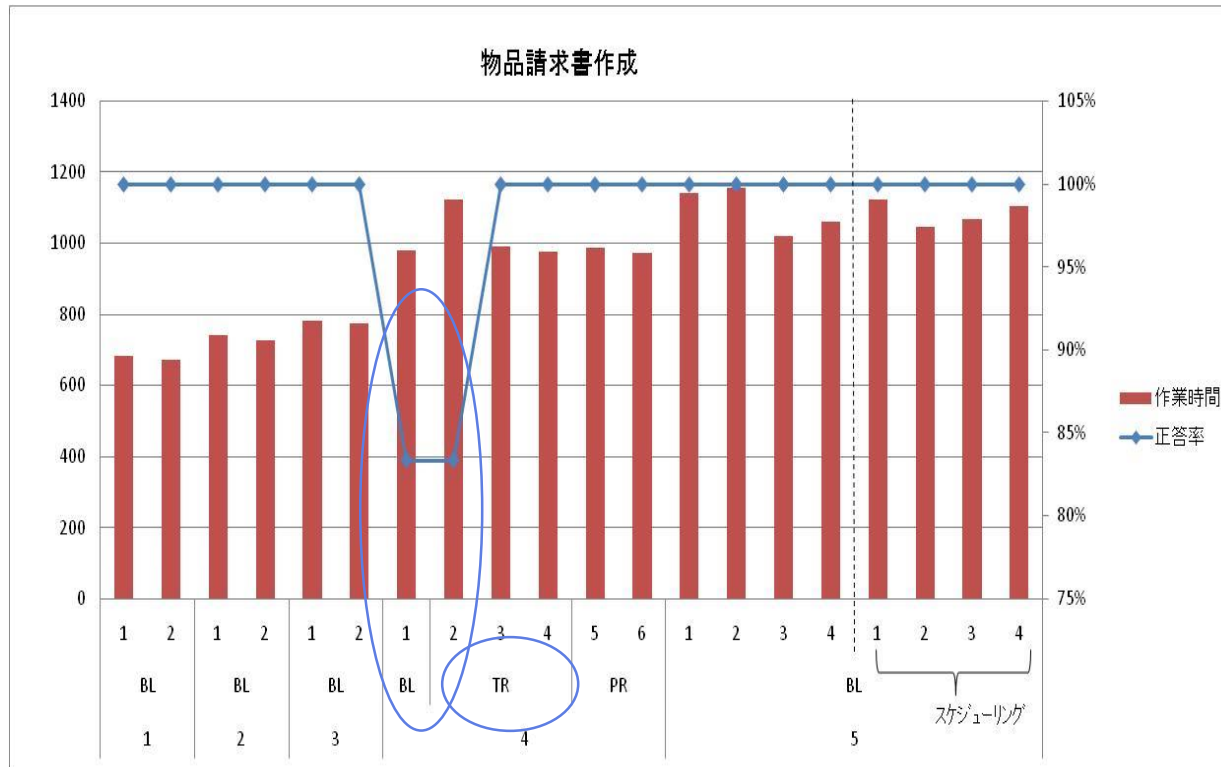
利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検討を行う。

利用者の未体験の作業も含めた作業種の興味や関心を把握する。

# 作業上の利用者自身の特性の現れ方、作業遂行力の把握を行うための支援を行う

## 作業を 持続できる集中時間を知ろう



利用者が作業中に発生させたミスやエラーの特徴やパターンを把握する。

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの原因を把握する。

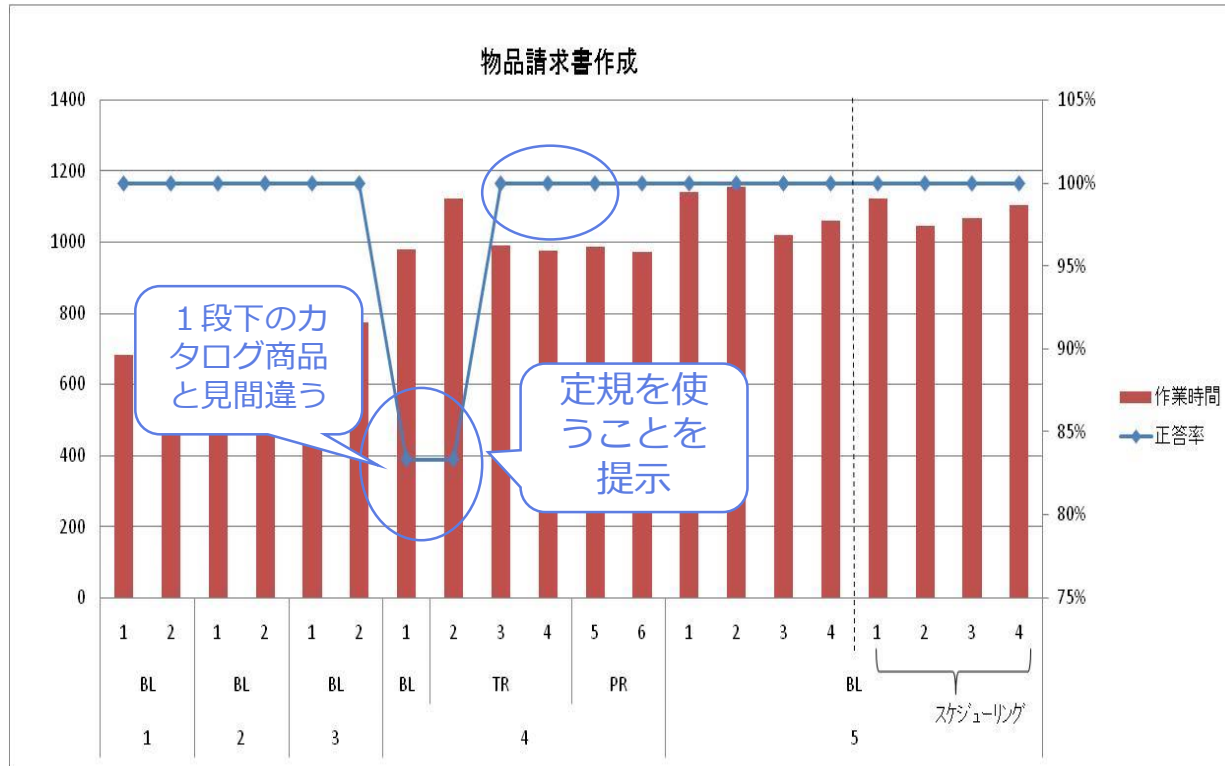
利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検討を行う。

利用者の未体験の作業も含めた作業種の興味や関心を把握する。

# 作業上の利用者自身の特性の現れ方、作業遂行力の把握を行うための支援を行う

## 作業を 持続できる集中時間を知ろう



利用者が作業中に発生させたミスやエラーの特徴やパターンを把握する。

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの原因を把握する。

利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検討を行う。

利用者の未体験の作業も含めた作業種の興味や関心を把握する。

# 作業上の利用者自身の特性の現れ方、作業遂行力の把握を行うための支援を行う

1 実際の**職場に近い**作業環境を段階的に準備



2 職場で起こりそうな、作業毎のエラー内容、作業時の疲労・ストレスの現れ方等、作業上の特性を**体験**



3 フィードバックによって**気づきを促して**く支援

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの特徴やパターンを把握する。

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの原因を把握する。

利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検討を行う。

利用者の未体験の作業も含めた作業種の興味や関心を把握する。

# 作業上の利用者自身の特性の現れ方、作業遂行力の把握を行うための支援を行う

## ○ポイント

事前のアセスメント等で、補完方法の獲得が必要である場合は、本人にとって適切な難易度や作業種を選定して、訓練経過に従って、次第に職場に近い環境設定をしていくものとしている。

そのため、最初に作業課題を設定する際は（シンプルなもの→複雑なもの）の順番を意識することとして、多数の作業課題を一斉に処理させていく等の複雑な課題設定は行わない。

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの特徴やパターンを把握する。

利用者が作業中に発生させたミスやエラーの原因を把握する。

利用者が作業を行う時に集中力を持続できる時間を把握する。

作業訓練開始前に利用者にとって最も効果的な作業訓練課題の検討を行う。

利用者の未体験の作業も含めた作業種の興味や関心を把握する。

# 簡易版と訓練版

## 簡易版

- 職業に関する情報提供として
- 訓練版を活用する前の動機付けとして
- アセスメントとして  
(作業の実行可能性、興味のあるもの・苦手なものなど)

「比較的短時間で実施できる」

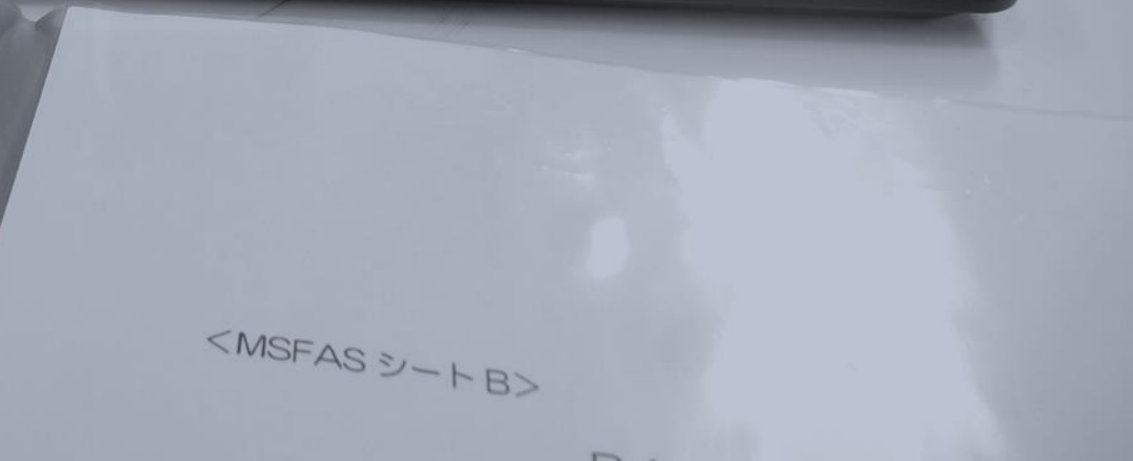
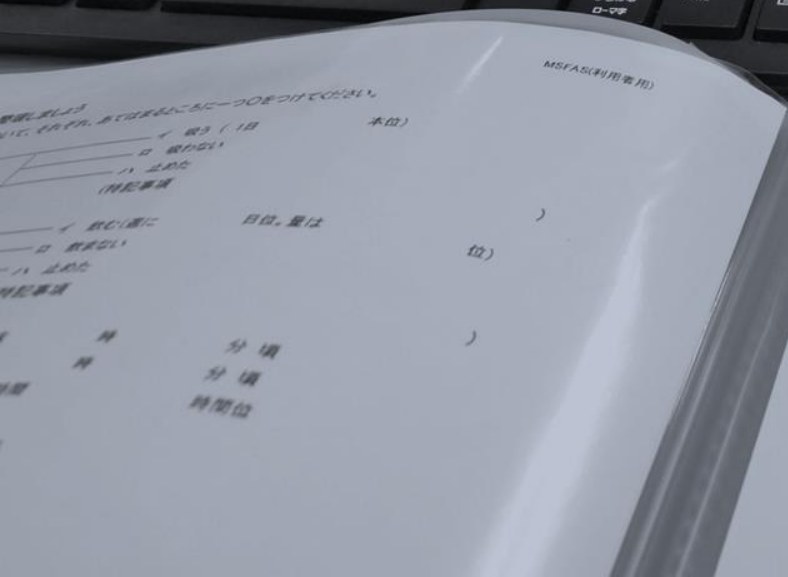
## 訓練版

- 評価と訓練の機能をもつ
- 継続的な指導ができるよう相当量の課題を用意
- 段階的な難易度のレベルを設定
- 対象者に応じ、作業負荷を段階的に調整できる

簡易版は広く作業を体験し、訓練版は本人の興味・指向に併せて支援者がまず課題を提示することになっている。

# 3

## アセスメント結果による 支援方法の検討



# 機能分析を理解しよう

---



(MWSの分析も同様)

# 応用行動分析の考え方

人の行動の頻度は、その行動を起こす  
「直前の状況」と「後の結果」によって左右される。



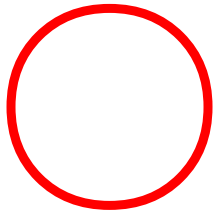
直前の状況  
(きっかけ)

行 動

結 果

# 応用行動分析の考え方 (MWSの分析も同様)

## 着目する行動の原因・理由を分析



- 例
- ~をするきっかけは○○な状況の時
  - ~をするのは○○○のためだから？
  - 以前と比べて○○が多いのはなぜ？

## 性格などの内面的な要因を理由にする分析



- 例
- あの人は性格が悪いから○○する
  - だらしないから○○ができない
  - ~ができないのは○○が悪いから

# MWSで見える行動を どのように分析するか



## ● 行動の「前後」をよく見る

行動そのものだけではなく、その直前と直後に何が起きているのかを、ととてもとても重要視する

## ● 行動の「機能」をよく見る

行動の見た目だけではなく、その行動が何の役に立っているのかをととても重要視する

## ● 行動の「傾向」をよく見る

行動の水準（多い・少ない）に加え、過去と比べて増加傾向なのか減少傾向なのかを重視する。

# MWSの作業場面で応用行動分析を活用するメリット



## 支援の際に問題行動を分析できる

- 行動の原因を個人の内面だけでなく、環境面からも検討できる。
- 解決方法を理論的に分析できる。

## 個人・環境双方へのアプローチが可能

- 支援の際に、利用者・作業環境双方からいろいろな支援方法を検討できる。

# 機能分析の具体的方法

行動の前後を見る

---

# 行動の前後を見る



強化の  
原理

直前の状況  
(きっかけ)

数値入力で  
エラーをした

行 動

指差しチェック  
を導入して作業

結 果

連続正答に  
なった。  
(周囲からの賞賛)

**強化**

(行動を増やす)

## ● 強化の原理

ある状況において、行動することで、何か良いことが起こったり、悪いことがなくなったりすると(プラスの結果)、その行動は繰り返される。

# 機能分析の具体的方法

## 行動の前後を見る（行動分析）



行動操作

直前の状況  
(きっかけ)

MWSの数値  
チェック課題  
実施の際

行 動

定規を代償手段  
に使う

結 果

2ブロックミ  
スがなくなる  
(周囲から正の  
フィードバックを受  
ける)

**強化**  
(行動を増やす)



# 行動の前後を見る



弱化の  
原理

## 直前の状況 (きっかけ)

MWSのピッキングタワーに  
もたれかかった

## 行 動

ピッキングタワー  
を倒す。

## 結 果

ピッキングタワー  
が破損。  
支援員から注意さ  
れる。

**弱化**

(行動を減らす)

## ● 弱化の原理

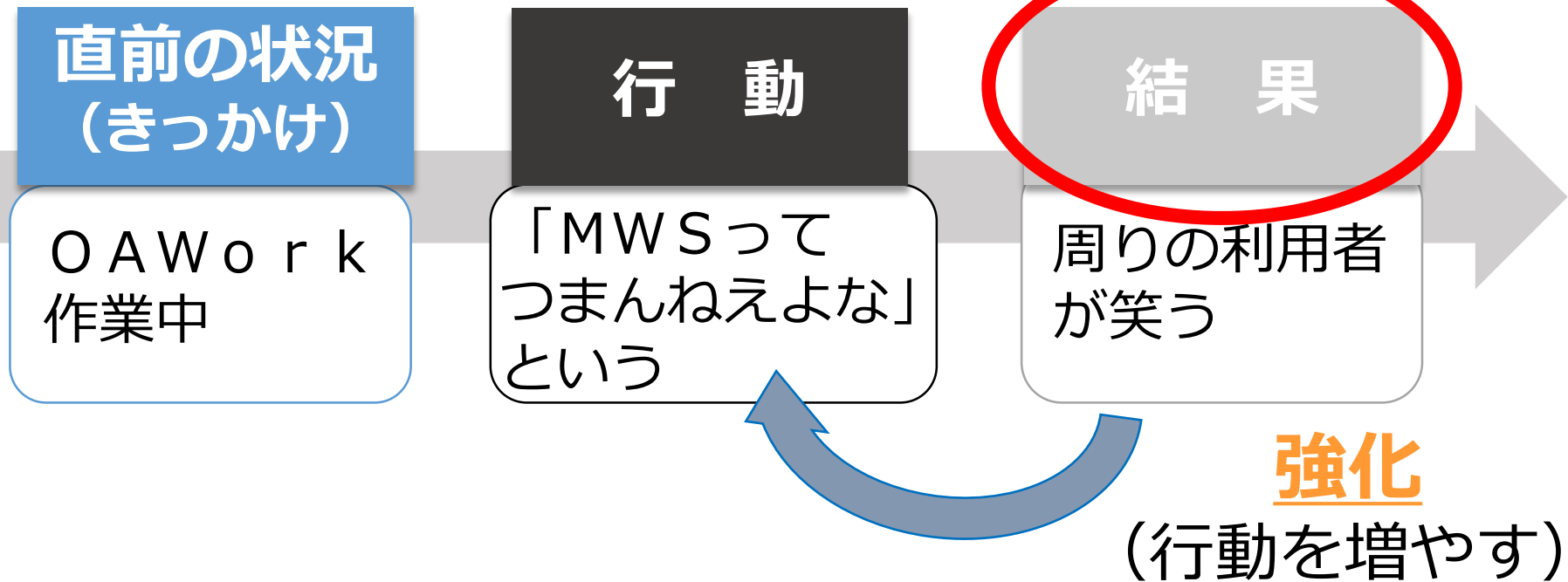
ある状況において、行動することで、何か悪いことが起こったり、良いことがなくなったりすると  
(マイナスの結果)、その行動は繰り返されなくなる。



# 行動の前後を見る



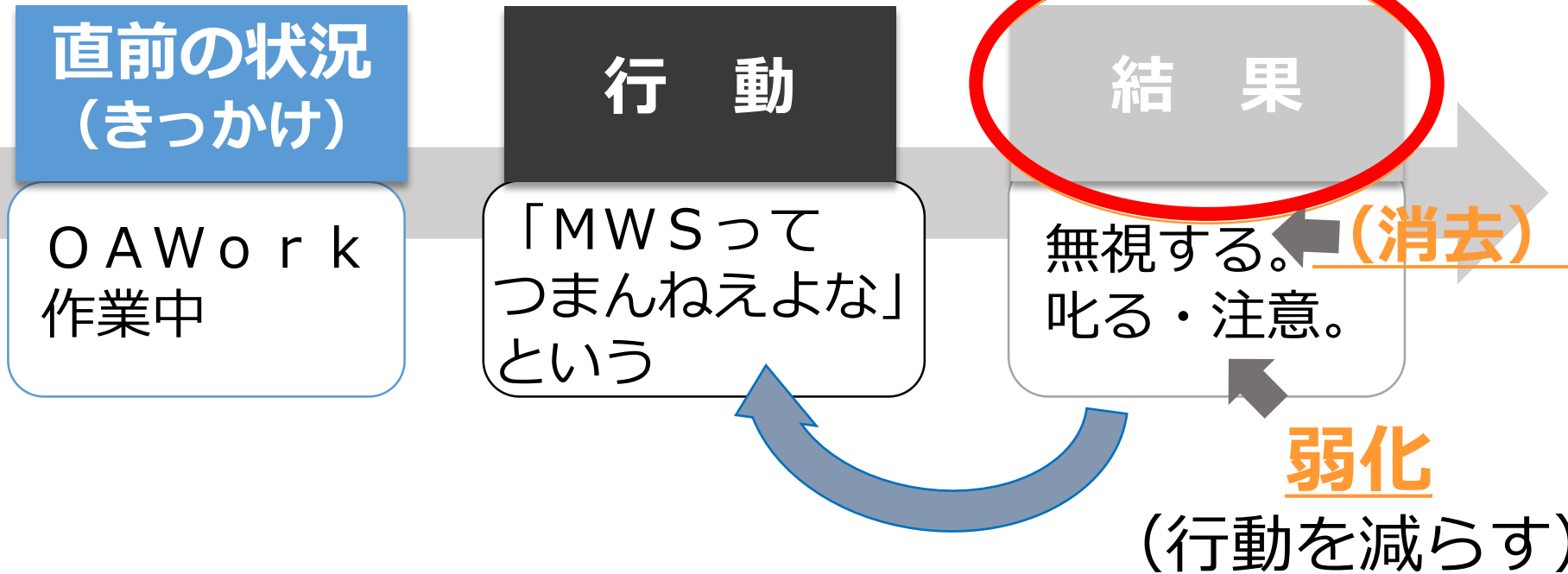
## ● 強化による結果操作



行動に対して、良いこと（プラスの結果）を発生させて、その行動を強化する。

# 行動の前後を見る

## ● 弱化による結果操作



行動に対して、悪いこと（マイナスの結果）を発生させて、その行動を弱化する。

# 行動の前後を見る

## ● 行動操作



行動に着目

直前の状況  
(きっかけ)

O A W o r k  
作業中

行 動

~~「MWSって  
つまんねえよな」  
という~~

結 果

疲労のサイン  
ストレッチな  
どで休憩

(例) 適切な表現方法  
「文章入力を連続して入力  
したら疲れました」

# 行動の前後を見る

きっかけに着目



## ● 先行子（きっかけ）操作

直前の状況  
(きっかけ)

~~O A W o r k  
作業中~~

O A w o r k の  
目的を確認

行 動

O A W O R K の  
目的を理解して  
作業

結 果

O A W O R K の  
作業課題を納得  
して遂行

# 機能分析の具体的方法

行動の機能をよく見る

---

# 行動の機能をよく見る



行動の見た目だけではなく、その行動が  
何の役に立っているのかをとても重要視する



# 行動の機能をよく見る

直前の状況  
(きっかけ)

OAWork  
作業中

行 動

「MWSって  
つまんねえよな」  
という

結 果

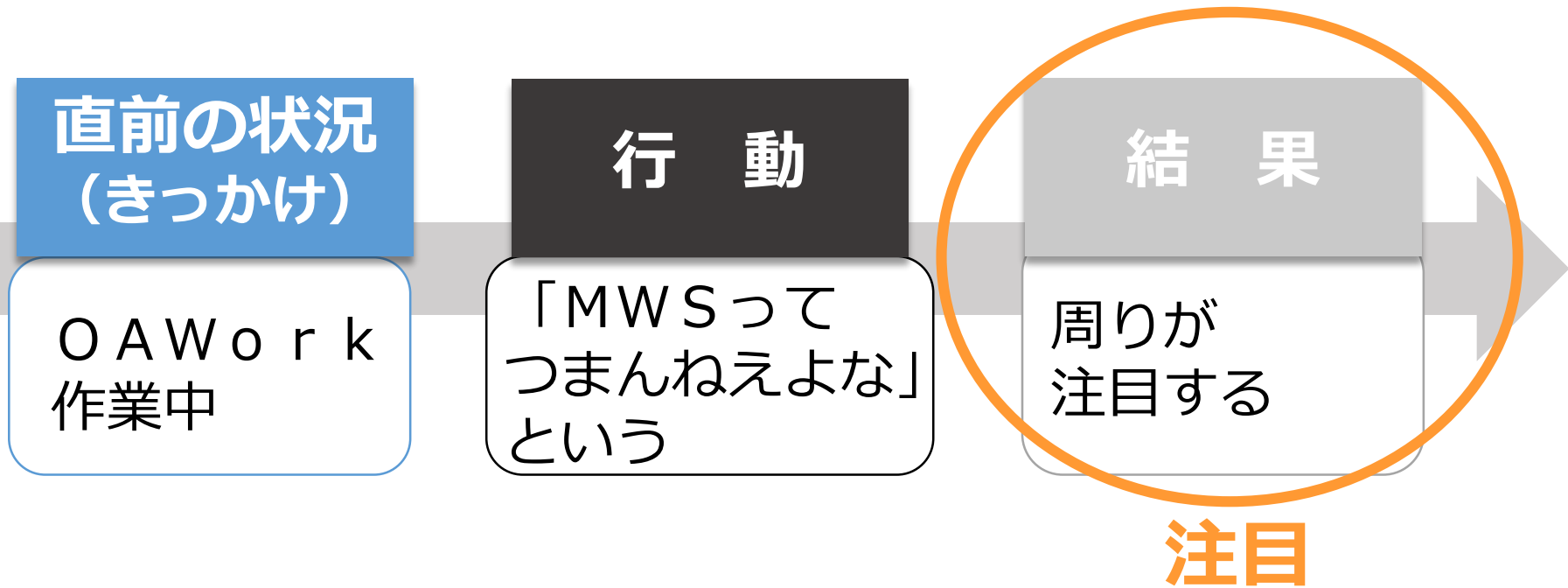
MWS以外の  
作業をする

要求

## ● 要求の代替行動

何をしてほしいのか「～ください」、「～していい  
ですか」、「おしえてください」などなど

# 行動の機能をよく見る



## ● 注目の代替行動

悪口ではないことで、周りから見てもらえる行動に変えていく。「~のこと知ってる？」など違う話しかけ方のスキルを学ぶ など



# 機能分析の具体的方法

機能分析で T P 支援するための [ヒント事例](#)

---

# 機能分析で支援するための ヒント事例（先行操作編）

## ● 時間を守れない対象者の支援事例

直前の状況  
(きっかけ)

会社の休憩時間  
(10分)

休憩時間には  
タイマーを持つ  
ように支援

行 動

休憩時間を過  
ぎても休憩し  
つづける。

結 果

ゆったりと休む  
長く楽できる  
(+)

周囲から  
さぼって  
いると思  
われる (-)

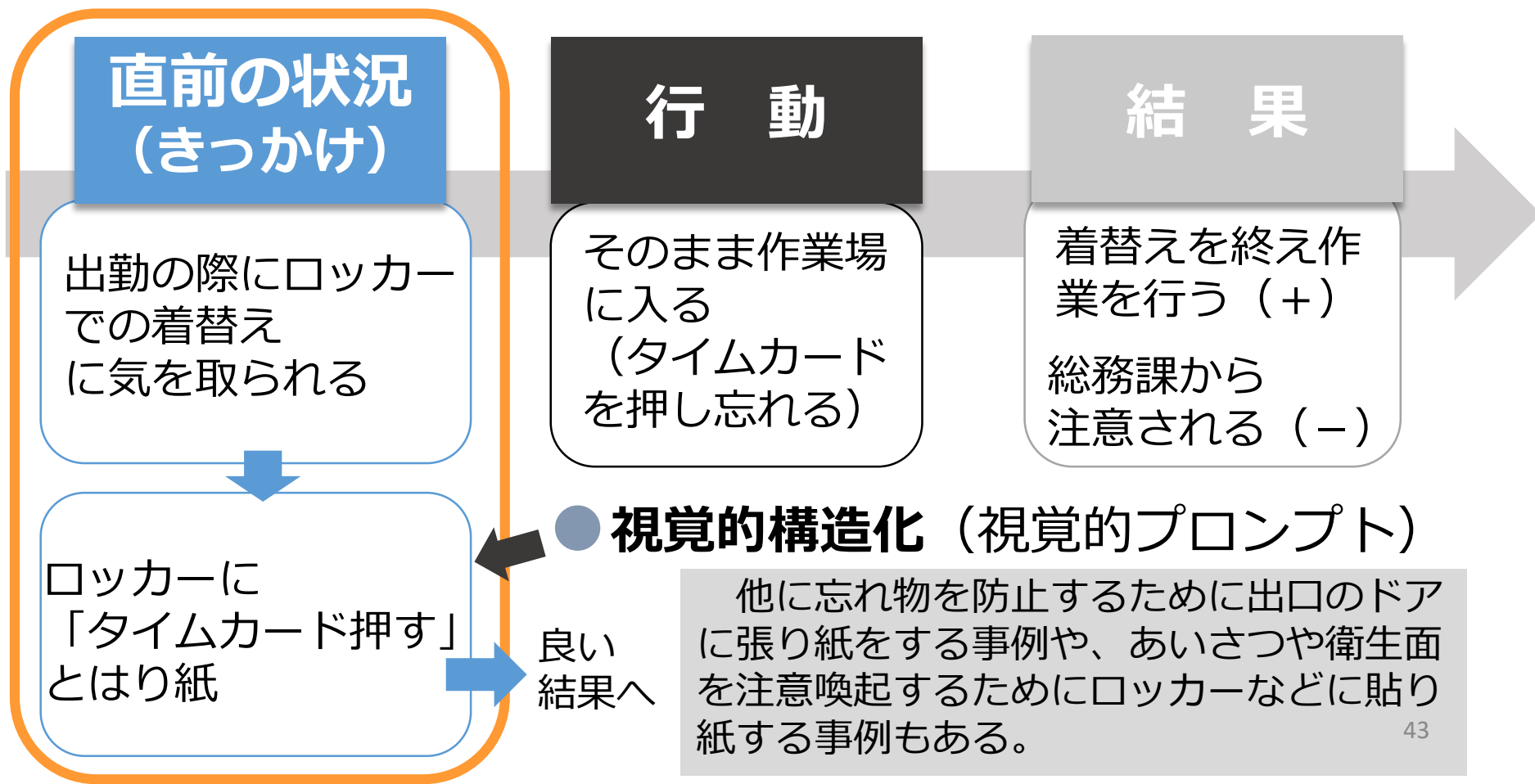
### ● 視覚構造化（視覚的プロンプト）

良い  
結果へ

他に時間を意識してもらうために砂時計の活用や時計着用、工場内時計の位置の変更等の事例がある。

# 機能分析で支援するための ヒント事例（先行操作編）

## ● つい忘れてしまう対象者の支援事例



# 機能分析で支援するための ヒント事例（先行操作編）

## ● メモを忘れてしまう対象者（高次脳）の支援事例

### 直前の状況 （きっかけ）

作業指示の際に  
メモをとることを  
忘れてしまう

自分の机のPC  
画面に「メモをす  
る」とはり紙

### 行 動

指示されたこと  
と違う行動  
をとる。

### 結 果

以前と同じように作業が  
できる感覚（+）  
  
作業ミスにつながる（-）

## ● 視覚的構造化（視覚的プロンプト）

手順書の掲示や、見本を手元に置くなどの  
支援も、視覚的構造化による先行操作に該  
当する。

良い  
結果へ

# 機能分析で支援するための ヒント事例（先行操作編）

## ● 聴覚過敏のある対象者（発達障害）の支援事例

### 直前の状況 （きっかけ）

事務室で電話や  
他の職員の会話が  
苦痛



ノイズキャンセリング  
ヘッドホンの着用



良い  
結果へ

### 行 動

我慢して仕事  
を続ける

### 結 果

仕事を継続できる（+）  
ストレス  
効率の低下（-）

### ● 確立操作

直前の状況（きっかけ）の場面において、  
結果の効力を上下させるような行動を支援  
すること。

# 機能分析で支援するための ヒント事例（先行操作編）

## ● 作業効率に課題がある対象者の支援事例

直前の状況  
(きっかけ)

見通しの立たない仕事

作業の目標値を設定。目標値に達したら休憩

行 動

がまんしながら仕事を続ける

結 果

ペース・効率が後半低下する (-)

持続力が無いと評価される

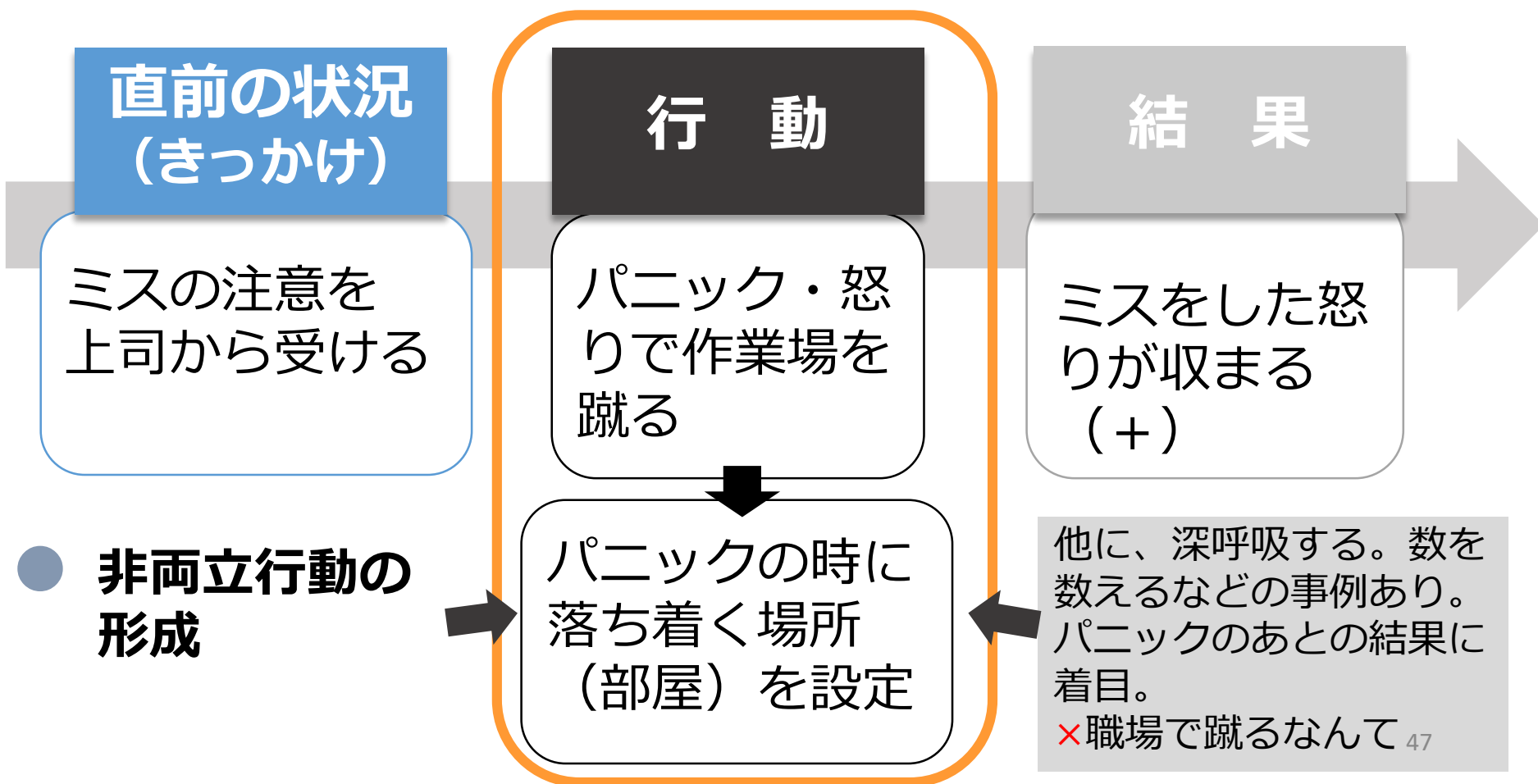
### ● 目標限定法（シェイピング）

良い結果へ

作業量など目標値を設定して、作業終了の見通しを持てるように支援した。

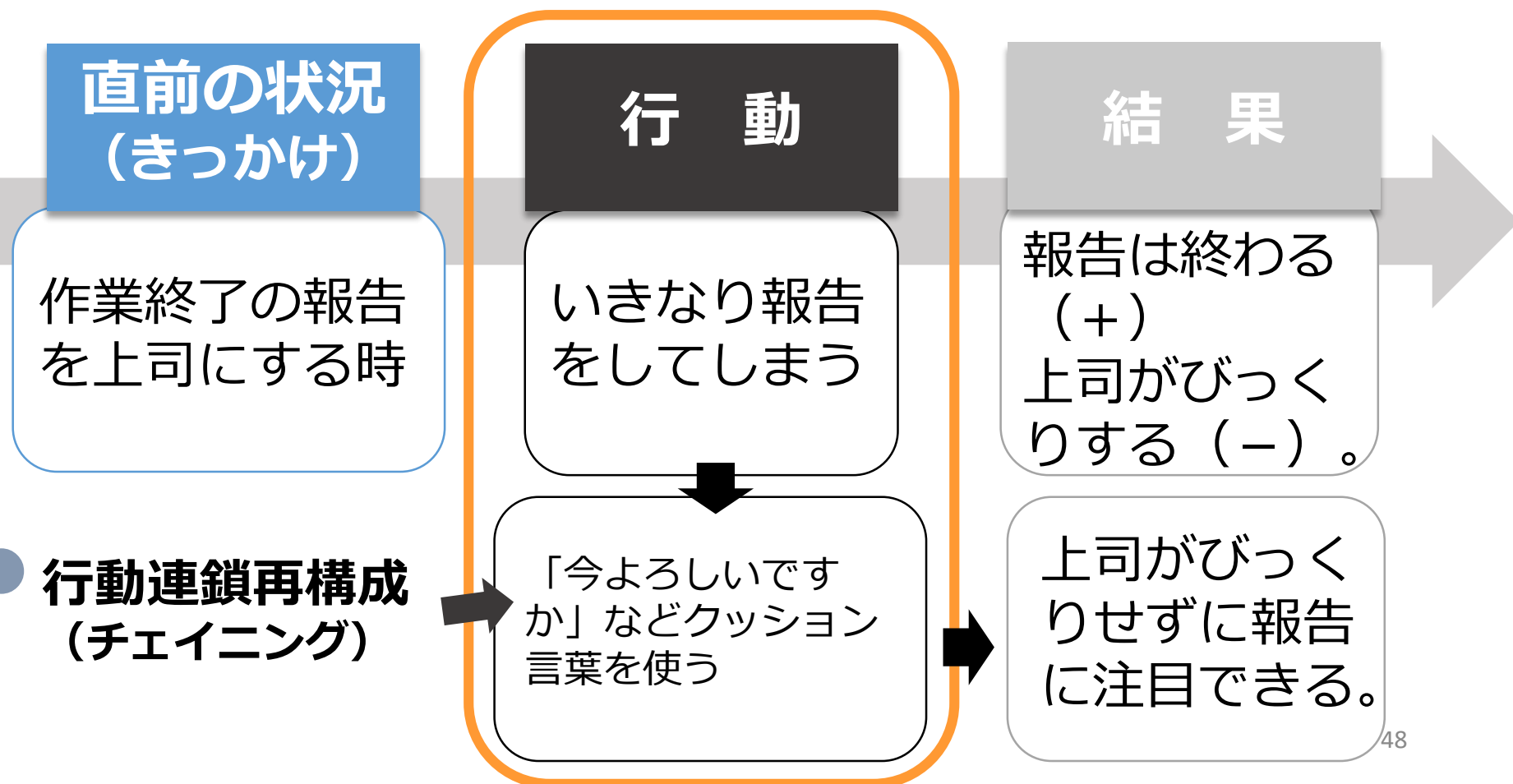
# 機能分析で支援するための ヒント事例（行動操作編）

## ● 注意されるとパニックになる対象者の支援事例



# 機能分析で支援するための ヒント事例（行動操作編）

## ● 唐突な報告が課題となった対象者の支援事例





# 機能分析で支援するための ヒント事例（結果操作編）

## ● 報告が苦手な対象者の支援事例

直前の状況  
(きっかけ)

作業終了の報告  
を上司にする時

行 動

上司が忙しそう  
で報告せずに  
作業を行う

結 果

迷惑をかけず罪悪感なく  
作業を継続 (+)  
上司への気遣いから  
報告が滞る (-)

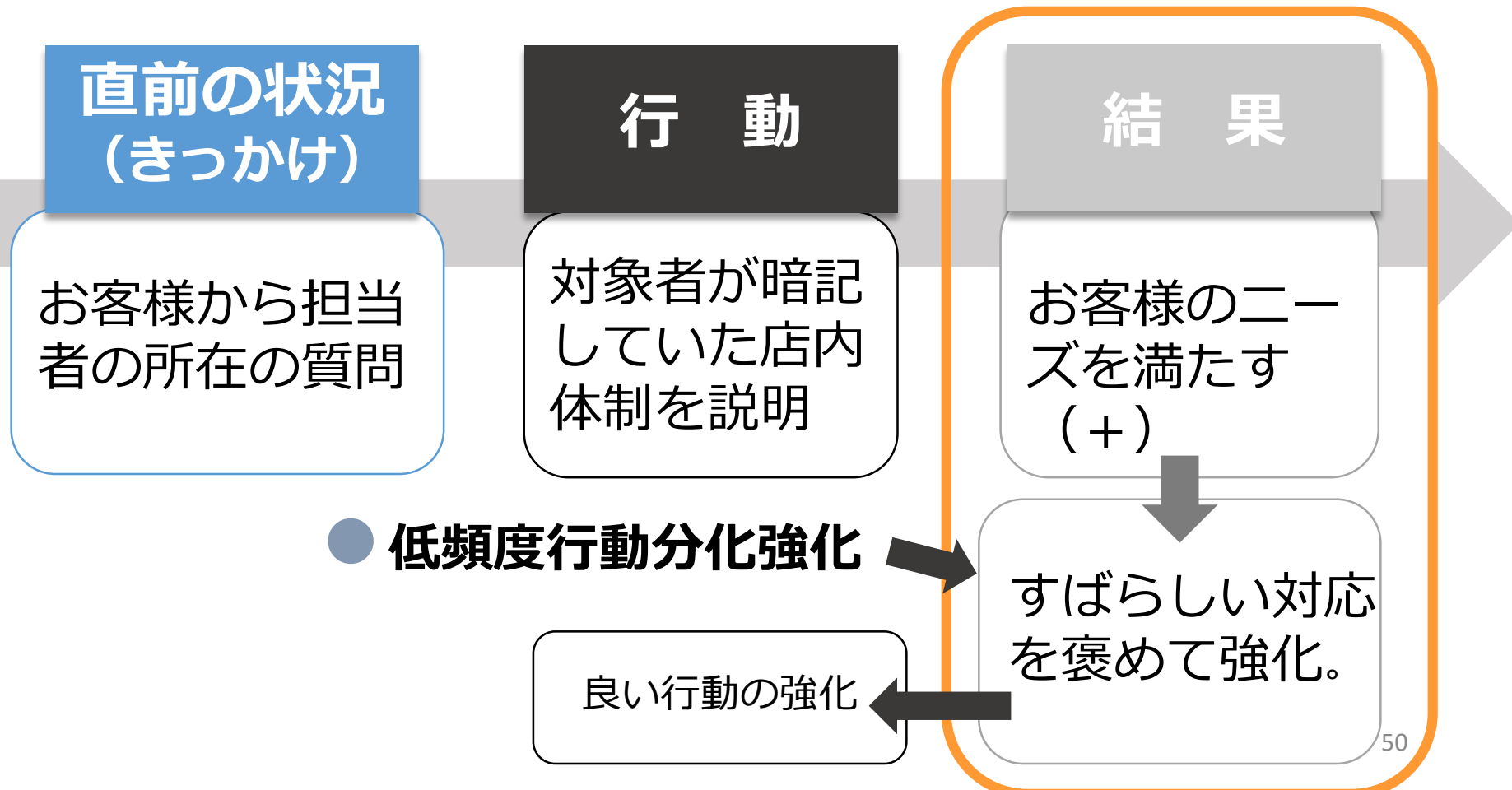
### ● 嫌悪的な結果の除去

上司へ迷わず報告

報告した際に上司から  
「報告お疲れ様」と  
伝えてもらう。

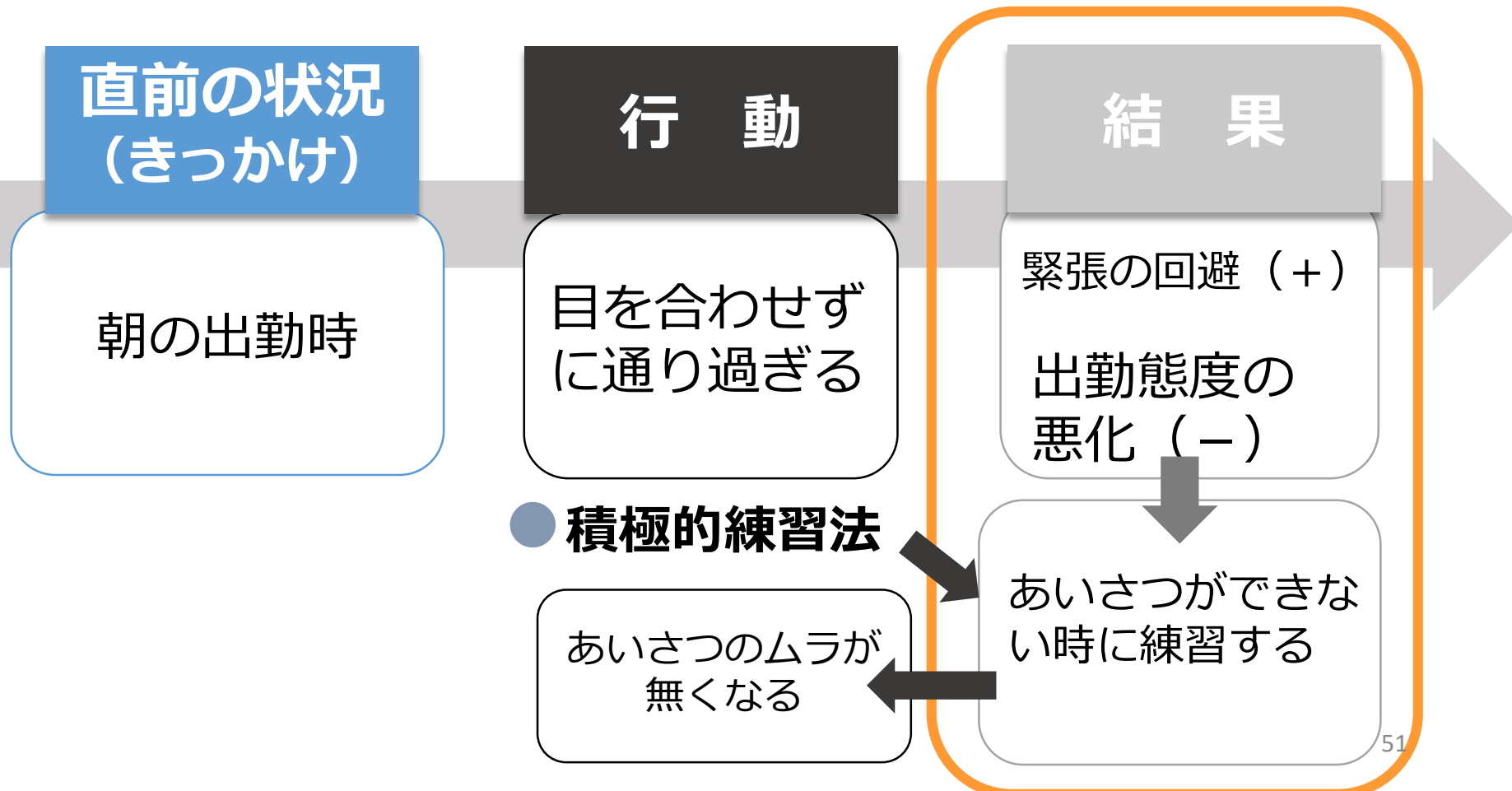
# 機能分析で支援するための ヒント事例（結果操作編）

## ● スポーツ店で勤務する対象者の支援事例



# 機能分析で支援するための ヒント事例（結果操作編）

## ● 報告が苦手な対象者の支援事例



# 機能分析で支援するためのヒント（その他編）

## ● 自己モニタリング

- 自己の行動の記録を取る。 例：作業日誌（体調度チェックつき）

## ● ビデオフィードバック

- 自己の行動の様子を撮影した動画を見る。（客観視してもらう）

## ● トークンエコノミー

- 特定の行動を増やしたり強化するためにトークン(代理貨幣)と呼ばれる報酬(ごほうび)を与え、報酬が一定の量にたまったらより具体的な報酬を与える方法。